

町民9人がザイスト市など訪問

友好の輪をさらに広げる

オランダを訪問する「町海外研修派遣事業」が十一月六日から十四日まで行われました。異国の産業や文化を学び、広い視野を持った人材を育成しようとして、今年一度開催されているもので、今回は沼崎喜一町長を団長に町民九人と町職員二人の総勢十二人で本町を出発しました。八日には在蘭日本大使館を訪問し、キンデルダイク風車保存地区やハーグ市内の国会議事堂、漁港を視察しました。九日にはザイスト市役所を訪

れ、今年一月に就任したヤンセン市長を表敬訪問。これまでの海外研修事業への協力と支援にお礼を述べるとともに、今後とも変わらぬ交流を続けていくことをお願いしてきました。翌十日、一行は毎年ジュニア海外使節団がお世話になっているクリステリック・リセウム・ザイスト（CLZ）校をはじめ、自然環境センターや高齢者生活支援センターなどを訪問。オランダの教育制度や福祉制度などについて学びました。同日からは二泊三日のホームステイ。団員の皆さんはホストファミリーと面会し、不安や期待を胸に各家庭へと行きました。次の日の団員の表情からは楽しいひとときを過ごせたことがうかがわれ、通常の海外旅行では味わうことができない貴重な体験ができたようでした。また、ホームステイ二日目の夜には交歓交流会が行われ、国際交流団体ホフライスやホストファ

ミリーなど三十六人が出席。団員とさらに親睦を深め、友好の輪を大きく広げました。十二日と十三日にはアムステルダム市内を視察。国立博物館や木靴工場、漁港などを見学し、オランダの歴史や文化、産業について理解を深めました。参加した皆さんはオランダの文化や人々の温かさに触れ、国際交流の意義や素晴らしさを感じた研修となったようです。参加した方々から感想が寄せられましたのでご紹介します。



ヤンセン市長を表敬訪問

自然環境センターで環境教育について学習



交歓交流会ではオランダの皆さんと交流を深めました

◆主な研修日程

- 11月8日 キンデルダイク風車保存地区視察、在蘭日本大使館訪問、ハーグ市内視察（国会議事堂、マドローダム、ハーグ漁港）
- 11月9日 オルゴール博物館視察、ザイスト市役所表敬訪問、ザイスト市主催の夕食会
- 11月10日 ザイスト市内視察（CLZ校、高齢者生活支援センター、自然環境センター）
- 11月11日 ホストファミリーとザウレン城見学、交歓交流会
- 11月12日 大堤防、アムステルダム市内視察（漁港、アンネ・フランクハウス）
- 11月13日 アムステルダム市内視察（国立博物館、ゴッホ美術館、木靴工場）



日本の教育とまったく違い大変参考になった

山本 敬久さん（大沢・46歳）

CLZ校は2009年に創立100年を迎える伝統校で1,134人が在籍。「質の高い授業」を教育のモットーとし、劇や音楽などの活動も重要視しています。生徒が制服を着ていないことや、単位制で選択授業であることから日本とまったく違った雰囲気、生徒たちは落ち着いて見えました。覚えることより考える力の育成に力を入れているオランダの教育制度の一部を見ることができ、大変参考になった研修でした。

本物の絵画を鑑賞でき貴重な経験をしました

山本 友里恵さん（大沢・41歳）



今回の研修では、オランダが世界をリードしている文化や芸術分野について学習したいと思っていました。国立博物館では、所蔵しているすべてのレンブラント絵画と素描画が鑑賞できました。本物の絵画を自分の目で見て体感することは、生涯の中でそうそうできることではありません。小学生くらいの子供たちが大きな絵画の前に座り、先生らしき方から熱心に説明を受けている姿がとても印象的でした。

ゆったりと暮らす姿に自分自身見詰め直した

昆 富子さん（織笠・62歳）

オランダでは牧場も風車も道路も見渡す限り平らな所にあり、すべてが広々とした感じを受けました。「世界は神が造ったが、オランダはオランダ人が造った」という言葉に、長年水という自然の脅威と闘い低地国オランダを築いてきたオランダ人の粘り強さを表しているような気がしました。今では自然と調和しながらゆったりと暮らす人々の姿に、わたし自身の暮らしを見詰め直す良い機会となりました。

ジェスチャーと絵で何とか会話をしました

細谷 弘子さん（後楽町・65歳）



オランダの洗練された美的感覚に感激し、伝統ある建物が整然と並びさまは素晴らしい一言でした。わたしは英語もオランダ語も話せないで、ホームステイですべてジェスチャーと絵を書いて話をしました。それを理解しようとしてくれたホストファミリーの気遣いにも大変感謝します。今回の体験は、わたしの宝物となりました。この体験を生かして日蘭交流のお手伝いができたらと思います。

「本当に大切なもの」を見詰め直すきっかけに

佐々木 慶一郎さん（川向町・32歳）

オランダが歴史的建造物の保存と修復に力を入れている国だということは聞いていましたが、移動中の車窓から見える美しい街並みや、牛や羊が悠々と暮らす田園風景からそれがよくうかがえました。古き良き伝統を守り、生活様式の根本を変えることなく近代的移行を見事に果たしているオランダの人々の知恵と努力には感心させられ、「本当に大切なもの」とは何かを見詰め直す良いきっかけになりました。

楽しみながらできる子育て環境が魅力的

小林 香菜子さん（太浦・23歳）



オランダでは家族と過ごす時間をとても大切にしていました。例えば、アップルパイを焼くにも、お母さんがリンゴの皮をむき、子供たちが生地を混ぜ合わせ、お父さんが型に生地を貼り付けていくという具合です。子育てに男性が協力的なのも印象的で、楽しみながら伸び伸びと子を育てられる環境も魅力的でした。おおらかで個人を尊重するオランダの方たちの姿勢から学ぶことの多い8日間でした。

自転車利用者が多い交通事情にびっくり

佐藤 比呂美さん（八幡町・50歳）



オランダで最初に目に付いたのは車道、自転車道、歩道のそれぞれに信号があったことです。通勤、通学と自転車を利用する人が多く、わたしたちが歩道と間違えて自転車道を歩いていたときは、巧みなテクニックで脇をすり抜けて走り去って行きました。オランダの皆さんはわたしたちを自然体で受け入れてくださり、どこに行っても温かく歓迎していただきました。とても楽しく充実した海外研修でした。

山田の良さを振り返りみんなで語り合いたい

佐々木 睦美さん（長崎・64歳）



オランダの街並みは建物の高さや色が統一され、街路樹も建物を壊すことなく植えられて、とてもすっきりしていました。ホームステイではホストファミリーの温かさに触れ、とても良い経験となりました。たと言葉は分からなくても、人と人のつながりはいつまでも続くものと思います。この旅で非常に多くのことを学びました。日本の素晴らしさ、山田の良さをみんなで語り合っていきたいと思います。

オランダの消費税19%納得できる環境でした

芳賀 愛子さん（豊根・59歳）



町の海外研修に参加して、個人の海外旅行では行くことができない施設などを訪問できたことに感謝しています。特に高齢者生活支援センターの高齢者サイドに立った環境整備と充実した施設内容には感動を覚え、オランダの「消費税19%」には、何となくうなずけるものがありました。これからは町のより一層の発展を願いながら、日蘭交流の活動に協力していきたいです。